

氏 名	岡本 耕一 おかもと こういち
学 位 の 種 類	博 士（医学）
学 位 記 番 号	第 4 4 7 号
認 定 課 程 名	防衛医科大学校医学教育部医学研究科
学位授与年月日	平成26年2月13日
論 文 題 目	周術期の経腸的栄養投与欠如による腸管免疫低下の影響に関する臨床研究
審査担当専門委員	（主査）杏 林 大 学 教 授 正 木 忠 彦 自治医科大学 教授 菅 野 健太郎 大学評価・学位授与機構 教授 中 原 一 彦

審 査 の 結 果 の 要 旨

術前に経腸的な栄養投与が欠如すると、感染防御能が低下し、術後に肺炎、腹腔内膿瘍、菌血症などの重症感染症を併発し予後不良となることが多い。近年、そのメカニズムとして、腸管関連リンパ組織(gut associated lymphoid tissue: GALT)の萎縮と機能低下、それに伴う全身の粘膜免疫の低下が重要な一因であることが動物モデルにおいて解明されてきた。しかしながら、ヒトでのエビデンスはほとんど無い。申請者は、ヒトにおける経腸的な栄養投与が欠如したさまざまな病態下で GALT の萎縮の有無を評価し、さらに術後合併症発生との関連を明らかにすることを試みた。その結果、大腸癌術前の経腸的な栄養投与の欠如が、GALT の成熟樹状細胞やその他の免疫担当細胞数を低下させること、感染性合併症発生率を高めることを明らかにした。また、術前に経口摂取が行われるも、腸管内腔へ栄養が到達しない人工肛門肛門側では、腸管の形態的萎縮と免疫担当細胞の減少が認められ、肛門側腸管の強い萎縮と術野外感染症との関連性が明らかとなった。

本研究成果は、大腸癌サバイレウス症例における安易な術前の絶食管理を避け、経腸的な栄養投与を行った上で手術に臨む治療戦略の重要性を示した。また、人工肛門造設症例においては、閉鎖手術前の肛門側腸管の萎縮評価が術野外感染症の発症リスクを予測することに役立つ可能性があること、さらに術前の萎縮改善策が術後感染性合併症の予防に繋がる可能性があることを示唆した。

これらの知見は今後の大腸癌患者の治療成績の向上に大きく寄与するものと考えられ、本論文の学術的価値は高く博士（医学）として合格と判断した。